

本科研では、『太政官日誌』の共同研究に引き続き、『江城日誌』『鎮台日誌』など戊辰戦争期の官版日誌類の生成過程や情報流通・受容の諸相を追及しています。今回の公開研究会では、文化資源といえる板木から見えてくる出版過程の諸問題について考えます。幕末維新史・出版印刷史・書籍研究に興味のある方のご参加をお待ちしております。

日時：2016年 2月11日 (木)

13:30開場 14:00-17:00

講演 (90分) 休憩 (10分) コメント・質疑応答

会場：立命館大学衣笠キャンパス

アートリサーチセンター、多目的ルーム

衣笠キャンパスへのアクセス、キャンパス内地図

<http://www.arc.ritsumei.ac.jp/access.html>

コメント

「板木『諸侯要覧』と幕末維新期の武鑑出版」  
藤實久美子 (本科研研究代表者、ノートルダム清心女子大学文学部・教授)

講演

# 板木観察と 出版研究

講師

金子貴昭 (立命館大学・  
衣笠総合研究機構・准教授)



『草露貫珠』板木 (個人蔵)

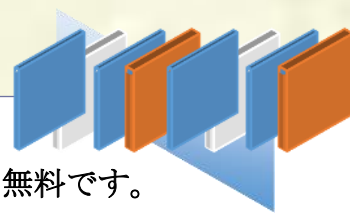
共催

戊辰戦争期木版刊行物研究会 [www.boshinjls.net](http://www.boshinjls.net)

東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター「戊辰戦争期摺物画像研究プロジェクト」

協力

立命館大学アートリサーチセンター



\*参加費は無料です。

参加ご希望の方は、東京大学史料編纂所の研究会参加登録フォームよりお申し込みください。

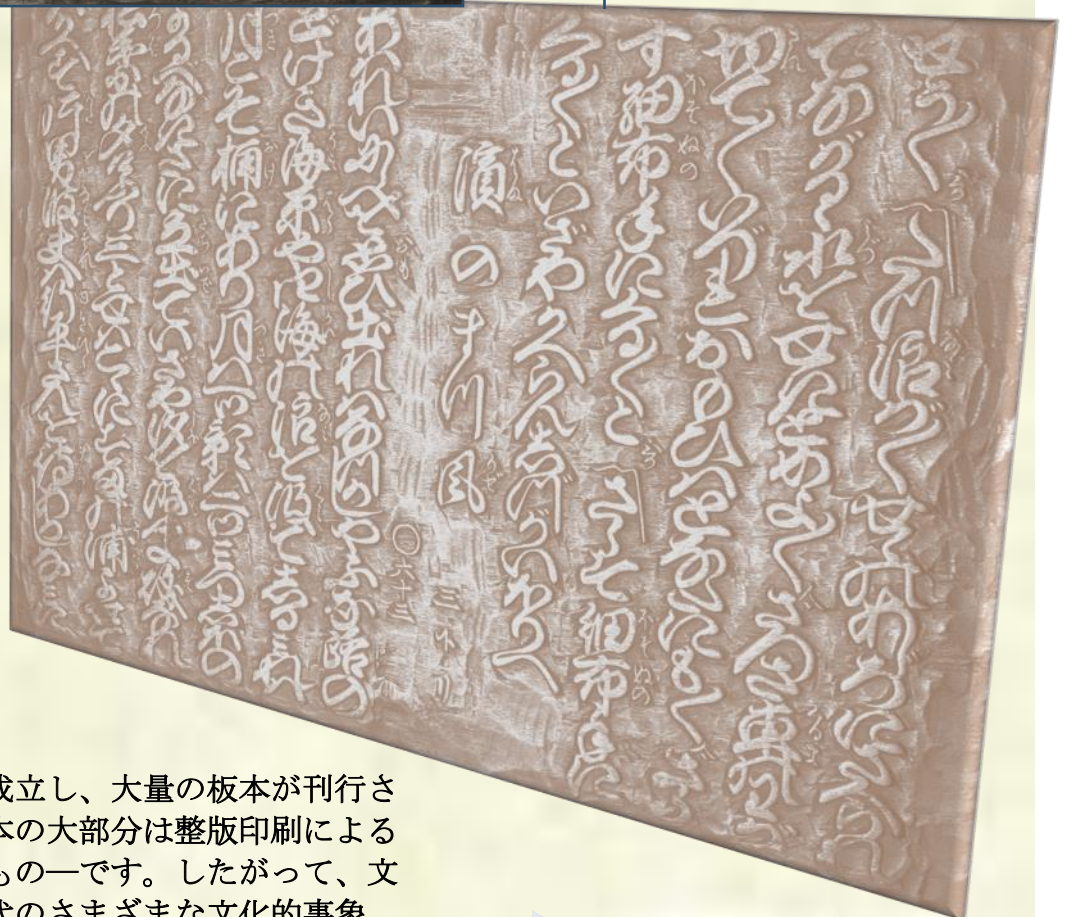
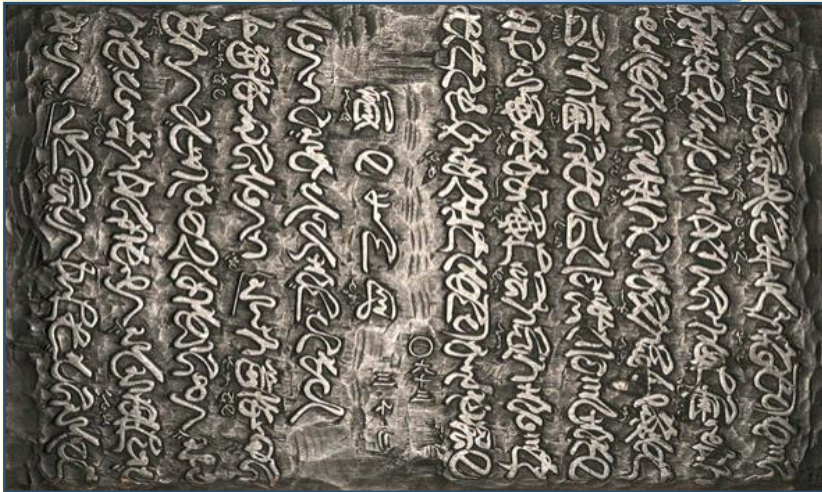
<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/footer/seminar-entry.html>



## 金子貴昭氏プロフィール

立命館大学大学院文学研究科  
人文学専攻博士課程後期課程  
修了。博士（文学）。独立行  
政法人日本学術振興会特別研  
究員PD等を経て現職。「板木  
書誌学」のための方法論を開  
拓。主な著書に『近世出版の  
板木研究』（法藏館、2013年）  
がある。

『(長唄集)』板木（個人蔵）



## 講師からの一言

江戸時代は商業出版が成立し、大量の板本が刊行されました。それらの板本の大部分は整版印刷によるもの一板木で摺られたもの一です。したがって、文学はもちろん、江戸時代のさまざまな文化的事象は、板本を扱わずして述べることはできません。同時に、その背後に存在した「板木」や「出版」も常に意識する必要があります。

本講演では、板木や板本の実物を見ながら、板木とはどのようなものか、板木から何がわかるのか、研究資料としての可能性についてお話しします。



\*会場にて板木の実物展示を行います。